

<今回>307回目 2021年12月10(金)15時~18時 第8会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p371、「旧唐書」の史料価値 より

<前回>306回目(21-11-26)出席者 7名

資料(21-11-26-1)前回のまとめ(清水)

A 報告 新しい変異ウイルス(オミクロン株)が南アフリカより登場した。日本は奇しくも新型コロナが収束に向かっているが、また不安を煽るような報道が連日のようにある。誰も説明できないのはこの2年間の経験も社会の体験として積みあがっていない。

B 資料 高山氏より、前回の筑前の風土記逸文(甲)類、筑後の国の風土記逸文(乙)類が示され、もう一度筑後風土記の内容が論議になった。古田先生はこの書の段階では磐井一継体戦争はあったとして解説されたが、後年磐井戦争はなかったと変更された、しかし風土記に示された岩戸山古墳と発掘の結果が一致して、これは磐井の墳墓であることが考古学、文献史学共に磐井の存在を認めたことになっている。

筑紫、豊、肥の国は何時から2つに分かれて呼ばれることになったのだろうか。関東の武射、毛野、総の3つの国も2つに分かれた。武蔵(むさしも)、相模(むさかみ)、上(毛)野(上毛)、下(毛)野、上総、下総(安房は独立)甲類も乙類も風土記の頃は上下2国になっていたのだろうか。(備、越は3つに分割された)

C 読書 367頁 二行目から

1) 高表仁が倭国に遣使されたのは舒明3年(631年)多利思北孤の国に派遣され、王子と礼を争い、綏遠の才がないと書かれた。翌年舒明4年(632年)8月、其の奥の新興の王家たる近畿天皇家に使いし、今度は友誼を結ぶのに成功している。しかしこのことは中国史書には載っていない。列島の代表者は九州の倭国である。近畿天皇家は地方の豪族の雄たるものとみなされているにすぎない。(倭の別種)

2) 貞観22年(648年)は孝徳天皇大化4年に相当するが、日本書紀には全く記載がない。

舒明2年(630年)8月 大仁犬上三田耜を大唐に派遣

舒明4年(632年)8月 大唐高表仁を派遣、三田耜を送らしむ。10月使人高表仁、難波津に泊まる。

5年(633年)1月 高表仁帰国、対馬まで見送る。

倭国とは争い、日本国とは友好的。江戸明治以来、学者たちは倭国と日本国を同一として解釈しようとした。

3) 旧唐書の日本国伝 長安3年(703年)朝臣真人、粟田真人と当て字もなく、日本側の表記通りの字面を中国側も記載している。大宝3年に派遣、唐では開元の始め遣使来朝、阿部の仲麻呂の滞在と昇任などを見る。

これまでの学者は倭国と日本国を併記するような不体裁と言い放って怪しまなかった(岩波文庫、旧唐書倭国伝日本国伝解説15)。中国史書に現れる倭国は奈良京の日本国の前身だという解釈です。

4) 元和元年(806年)平城天皇の大同元年、高階真人、橘の逸勢、僧空海派遣など続日本紀、日本紀暦、続日本後記などよく一致する。

次回日程 2021-12-24(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

2022-1-10((月・祭日) 16時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室

—1-21(金) 15時から18時 かながわ労働プラザ 第8会議室